

「持続可能な開発目標(SDGs)の中で一つ目標を選ぶとしたら、どのような理由でどの目標を選ぶか。また、その目標をどのように達成するか。」 -11年目のランドセル-

関西代表 アサンプション国際高等学校 2年 佐々木 亜子

今回私は、SDGsの目標12の「つくる責任つかう責任」をテーマに選びました。

私がそのテーマを選んだ理由は、自分が大切にしていたランドセルを、小学校を卒業後、妹に譲った時に感じた疑問や違和感がこのテーマと合致していると思ったからです。

私には6歳年の離れた妹がいます。私が中学1年生のときに、妹は小学1年生でした。私が6年間使っていた水色のランドセル。お母さんは「きれいに使ってくれてありがとう。これで妹もまた6年間このランドセルを使えるね。」と言いました。

私の水色のランドセルは、私が大好きだったおばあちゃんが亡くなる前に最後に買ってくれたプレゼントでした。なので私は、6年間汚れたら拭き、傷がつかないように大切に使い、とても大事にしていました。なので、妹にそのままお下がりでするのは本当は嫌だったのですが、お母さんはせっかくきれいなままのランドセルがあるのに新しく買うのは勿体ないと言いました。確かにそれもそうだなと思い、大事に使ってねと言って妹に渡しました。

そのことを親戚などに話すと、母は新しいランドセルを買ってあげたらいいのにと言われたそうです。1年生はみんなピカピカの新しいランドセルを持っているのに、恥ずかしいんじゃないかと言われたそうです。しかし、母は全く気にしていませんでした。姉がきれいに使っていたから、充分ピカピカだと言いつ返していました。妹も私のランドセルをとても喜んでいたので、私にとっては親戚達が言っている問題が何なのか分かりませんでした。

この「つくる責任つかう責任」という目標を知ったときに、このランドセルの事が頭に浮かびました。

周りからかわいそうだと思うから新しいランドセルを買う。お下がりのランドセルは恥ずかしいだろうから、新しいランドセルを買う。まだ使えるランドセルがあるのに、周りからの目線が気になるから新しいものを買う。そんな理由で使える物を使わずに新しい物を買う人達がいる。

まだ使える文房具を捨てる。まだ着られる服を飽きたから捨てる。まだ食べられる食品をお腹がいっぱいなので捨てる。

年間に出ている食品ロスの量や、ゴミの重さよりもそういう考え方や捉え方自体が、環境を破壊してエネルギーを消費しているのではないかと思います。使える物を使う事は恥ずかしいことではありません。

実際に妹は私よりも乱暴な扱いで私のランドセルを使っていますが、まだ破れたり壊れたりする事なく5年生になった今でも使えています。おばあちゃんは、これが最後のプレ

ゼントになるかもしれないと言って、とても頑丈なランドセルを買ってくれたと母から聞いたことがあります。

私達の身の回りには、昔に比べて色々な物が溢れています。それは、世界的に様々な産業が発達し、ビジネスの市場が大きくなったり、また化学や IT の発展もあり、どこにいても手軽に物を買うことができるように便利になりました。テレビが普及してからは、テレビショッピングで自宅にいても電話一本で物が購入できるようになり、スマートフォンが普及してからは、指一本で物が購入できる世の中になりました。

買い物をするという足し算の部分ばかりが進化して、本当に自分には必要なのか、長く使えるか、今ある物はどうするか、などの引き算の部分を考えて買い物をする人はどれくらいいるでしょうか。

実際、私も 4 月には新しいノートを買ったり、お腹がいっぱいになると食べ物を残してしまうことがあります。今回のこのテーマについて考えたときに、おそらく先進国の物に困っていない国に住む人達は、何かしらの形で、つかう責任を果たせていないのではないかなと思いました。一人一人が小さくても少しずつでも意識を変える事が、この「つくる責任つかう責任」という目標の達成につながるのではないかと私は考えます。

物を大切にする。破れたら縫う。壊れたら修理する。昔は当たり前に行っていた事も、物がたくさんある今の世の中では、そういった事を恥ずかしいとか可哀想だと捉える人が増えているのではないのでしょうか。

大切にした上で、どうにも使えなくなった物は買い換える。

絶対に新しい物を買わない、のではなく、大切に使える物、食べきれぬ量だけの食材、を購入し、つかう責任を果たしながら持続可能な物や食糧の環境をつくる事が今私達の世代に求められている事だと思います。